

Weekly・Monthly

体験学習ガイド NO.25 (4/22)

□読書の時間⑫『はるだ はるだよ！10ぴきのかえる』作:間所ひさこ 絵:仲川道子/PHP 研究所



(ふゆのあいだ、じめんのしたのふゆごもりハウスでねむっていた10ぴきのかえるが、あるひ、そろってめをさしました。)

「みーっけ、みっけ、たんぽぽみっけ」「みーっけ、みっけ、つくしんぼみっけ」10ぴきのかえるは、はじめてのはるにおおはしゃぎ。

ちょうちょうさん、かたつむりさん、どじょうじいさんにあいさつして(そこへ ふゆごもりからめをさました ほかのかえるたちもやって

きて)「まだねているかえる、いるかもね。おこしにいつてあげようよ」

10ぴきははりきって行きますが…。なんと、まだ冬ごもりしていたへびを起こしてしまい大騒ぎ！何とか逃げ切りかわいい女の子とであ

い、お花見をすることに…。リズムカルにお話がすすんでいき、かえるたちの表情もわいらしく面白い絵本です。お散歩中にかえるやちょうちょう…たんぽぽやつくしんぼうに出会ったら…思わず「みーっけ、みっけ、たんぽぽみっけ」♪と口ずさみそうです。

□聞いてみよう・やってみよう⑨～苦手な国語～ドイツから日本へ～中学受験に向けて⑦～

【国語学習の振り返り】

ちょうど受験までの折り返し地点、これまで力を入れてきた国語学習について少し振り返っておきたい。が、その前に、思い出話を一つ。今でも反省と共に思い出す、息子が小学3年生(当時、息子はハンブルグ日本人学校に通っていた。ドイツにある学校だったが、図書室の蔵書は充実していた。)だった夏休みの本にまつわる出来事がある。夏休みの宿題として読書感想文が出た。一人3冊、学校の図書室から好きな本を借りて感想文を書くのだが、息子が借りてきたのは、イラストたっぷりの児童書だった。それは当時の彼のお気に入りシリーズで、よく読んでいたことを私も知っている。親の私が読んでも面白いのだから、彼が好んでそのシリーズを読みたがるのもよく分かる。だが、読書感想文の題材としては、どうもじっくりこなかった私は、何気なく「絵本みたいだね。もう3年生だから、もうちょっと小説みたいなものを借りてきたら?」と言った。それを聞いた途端、息子はワーンと声を上げて泣きながら、こう反論した。「この本だって面白い!絵がたくさんあって分かりやすい!小説は字ばかりで全く場面が想像できない!」。もちろんその児童書がいけないと言ったつもりは全くない。むしろ、学校の図書室に置いてある本なら、ジャンルは問わず何でも読んでみて欲しいと私自身も思っている。しかし、**何気なく発した言葉に、まさかこんなに号泣するのは!?**と、**予想外の反応に私の方がびっくりしてしまった。**息子にしてみれば、ワクワクドキドキしながらこのシリーズを読むのを楽しみにしているのに、それを母から否定されたと受け取り強いショックを受けたに違いない。追い打ちをかけるように、「小説」という響きに、「小さい字がびっしりと並ぶ小難しい書物」を想像し、それを読むことを強いられていると感じて強い拒絶反応を示したのではないだろうか。大粒の涙を流しながら自分の主張を訴える息子を見て「**ああ、彼なりの、本を選ぶ理由があるのだな。痛快なストーリーにワクワクし、イラストを見ながら色々な場面を想像しているのか。**」と、はっと気がついた。後日、担任の先生との面談の際あるクラスメイトが語った息子の印象は「よく本を読んでいる」だったと聞いた。いつもは元気に学校の中庭で外遊びをしつつも時にはお気に入りのシリーズを図書室で借りてきて(またある時は学級文庫を)休憩時間に教室で読むこともあったそうだ。そんな息子の姿を知らない私は、クラスメイトの息子への印象に驚くとともに、益々、先の発言が悔やまれた。この一連の出来事は、今思い出しても、息子には申し訳なかったと、切ない気持ちになる。それ以来、**息子の借りてくる本への口出しはしていない。**さて、帰国してからの彼は読む物といえば、イラストたっぷりの児童書に加え、マンガとゲームの攻略本がメインになった。そんなこともあって、入塾当初、先生から頂いたリストをもとに、国語教材(理想の国語教科書青版・赤版・緑版、中学入試国語のルール、使える!徒然草、秘伝中学入試国語読解法)を揃えた私は、ちょっと怖気づいてしまった。どれも、息子が強く拒絶した、まさに「字ばかりの難解な書物」にしか見えない。**当時の私には、こんな難しい本を息子が読み解くことができるようになるとは、到底思えなかった。**しかし現在、「理想の国語教科書青版」の要旨要約を終了し、冬季講習で「中学入試国語のルール」を終え、今は、「使える!徒然草」の要約と「秘伝中学入試国語読解法」に着手している。本人の頑張りと言うまでもないが、石川先生の指導力は本当にお見事だ。**あんなに「字ばかり」の本を読むのを嫌がった息子に、いったいどんな魔法をかけたのだろうか?**と不思議でならない。復路11か月も、石川ゼミで着実に実力をつけて欲しいと願うばかりだ。先日、ついに漢検4級に見事合格した。これには本人も大喜び♪ただし、合格は終わりではなく次なる試練の始まりの合図だ。次のチャレンジは漢検3級と文章検定4級。さあ、新たな気持ちで頑張ろう!

●ソウシ君(小5)のお母さんからの VOICE ■「千の声 VOICE 2019 春号 NO.4」より